元気交付金 踊る自治体

21日に投開票が迫った参院選では、アベノミクスへの評価が大きな争点となっている。政府は地方経済を活性化しようと、新たな交付金制度をつくり、巨額の公共事業予算を積み上げた。"大盤振る舞い"に踊る自治体は多いが、将来にツケを回す手法も心配する声もやまない。

■元気交付金の使途の例

	事業内容（充当予定額）
兵庫県	但馬地域に動物愛護センター建設（3億7800万円）
和歌山県	和歌山マリーナシティにセーリング施設建設（2億5700万円）
京都府	由良川流域にサイクリングロード建設（1億3500万円）
京都市	市動物園に新しいゾウ舎建設（4億6700万円）

建て替えが決まった忠岡町の総合福祉センター＝16日、大阪府忠岡町

公共事業続々 危ぶむ声も

2013 参院選

大阪府忠岡町は、国から「地域の元気臨時交付金」約3億6千万円を受け取ることになり、老朽化した総合福祉センターを建て替えることにした。元気交付金は政府の緊急経済対策の一つ。地方経済のてこ入れを名目に、政府は2月、公共事業向けの大型補正予算を組んだ。

忠岡町では、4年前にもセンター建て替え計画が持ちあがったが、議会は「財政難なのに無駄だ」などと反対し、計画は立ち消えとなった。今回、町は元気交付金を使って計画を復活させた。町の担当者は「どの自治体も金がない。もらえるものはもらいたい」と話す。

当初の計画では平屋だった建物は3階建てに。10億円の大広間や和室も備える予定で、予算額は1・5倍に膨らんだ。事業費3億1千万円のうち2億8700万円は元気交付金でまかない、町の負担は約2千万円で済む。担当者は「今までできなかった事業ができる」と喜ぶ。

元気交付金の使途は原則として今年度中の事業完了が条件。担当者は「今やらないとお金が出ない」と、工期が長い鉄筋コンクリートでなく鉄骨を使うなど、事業を早めるよう迫る。

ただ、町の人口減傾向は複雑だ。自営業の40代女性は「新しいセンターを歓迎するものの、『日本は借金がたくさんあるのに、どこにそんなお金があるの』と疑問も感じている。

96%が利用予定

忠岡町のように、元気交付金を受け取る予定の自治体は全国の96%を占める。大半の自治体が飛びつくのには訳がある。

国が緊急経済対策で示した「国土強靱化」などのメニューにあてはまる公共事業なら、自治体負担する事業費の50%を、将来の借金返済時に国が交付税で肩代わりしてくれる。さらに国は「地方が資本調達しやすいように」と地方負担相当の約80%を元気交付金として自治体に配る。これを合わせると、自治体負担分の1・3倍のお金を国からもらえることになる。

1兆4千億円の元気交付金を含む政府の2月補正予算の緊急経済対策では総額10・3兆円にのぼる。ただ、うち5・2兆円は新規の国債発行で財源を確保するため、結局は将来の世代にツケを回すことになる。

使わぬ町 暮らしが優先

わずかだが、元気交付金を受け取らない自治体もある。三重県北部の朝日町、田代雅一副町長(71)は「これまで財政規律を守って計画的に事業をしてきた。急にお金をあげるから公共事業をどっと言われても難しい」と語る。

人口約1万人、町は10年前から大規模な宅地開発を呼び込み、約3千人が転入。2010年の国勢調査では人口増加率が日本一の35・3%になり、税収が増えて財政も上向いた。一方で公共事業は抑え、住宅新築時の固定資産税減免や子どもの医療費無料化など、住民の暮らしの充実に向けた予算配分を進めた。

田代町長は「移住してきた人の多くは団塊ジュニア。20年後に高齢化の波が来た時、膨大な借金が必要になる。いまハコものに使える金は限られている」と語る。町は新しい施設を建てる際、町民の声を反映させる条例を設けた。田代町長は「住民の思いを聞きながら、無理せず交付した町づくりをしたい」と言う。

一方、朝日町の建設会社は、年間の売上高が20年前の15%に落ち込み、8期連続の赤字。従業員も5分の1に減らした。社長(64)は「公共工事は減り続け、どこの業者もきつい。町の判断はほんまに残念」とため息をつく。(藤田さつき)

脱原発 高まらぬ議論

参院選の候補者（中央右）の「訴えを聞く脱原発を訴える討議行動の参加者ら＝19日午後7時23分、東京・永田町の国会正門前、小川智撮影

デモ参加者「なぜ争点にならないか」

「原発が争点から隠されている」。毎週金曜に首相官邸（東京・永田町）の周辺などで行われている抗議行動は19日も続いた。参加者らは盛り上がらない参院選に不満を募らせた。

首相官邸周辺の抗議行動には候補者も訪れ、「国民の声を無視した再稼働は許せない」。参加者からは「がんばって」との声が飛ぶ一方、東京都杉並区の主婦(62)は「叫ばれているのは、わじわじ国会解消ばかり」と嘆いた。

福島県双葉町から都内に避難し、借り上げ住宅で夫と暮らす日々が2年過ぎた。女性(68)は今後の見通しが立たない。テレビの討論番組で取り上げる脱原発を訴える議員がいなければ、忘れられてしまうと感じるという。

福井県内の大飯原発をはじめ全国で唯一稼働させている関西電力。大阪市北区の本店前には約100人が集まり、「原発やめろ」と訴えた。1年ぶりに参加した女性会社員(46)は「なぜ、自民党によって一番の問題が自立った争点にならないのか」。「原発ゼロ」を掲げる候補や政党に投票するよう呼びかけるべきだ」と憤った。

デジタル版に動画

小6、自殺図り重体

長崎 市教委「いじめ一因」

長崎市立小学校6年生の女子児童(11)が今月7日に自宅で首をつって自殺を図り、意識不明になっている問題で、市教委が18日発表した。市教委は「学校でのいじめが要因の一つと考えられる」と説明している。

市教委などによると、7日午後1時ごろ、女児が長崎市内の自宅で首をつっているのを家族が見つけた。病院に運ばれた際は一時心肺停止状態で、現在も意識不明が続いている。家族らへの手紙などは見つかっていない。

小学校で3日に修学旅行の班決めがあった際、女児がよく付き合っている4人の女子のうち一人が、女児を同じ班にしないよう主張した。しかし、反対した3人が担任に報告。担任は4人から事情を聴いた。

5日には学級会で、4人のうち1人が仲間外れの件を打ち明けた。学級会のテーマは女児の問題ではなかったが、自発的に発言し、女児に謝罪した。女児は担任に「仲間外れにされかけたのを友だちが止めてくれて、うれしかった。私は大丈夫です」と話したという。

また、女児が5年生だった年2月には、学校で上履きの片方がなくなり、教室で見つかったことがあった。故意に隠されたとみられ、学校は女児の保護者に伝えた。誰が隠したかはわからなかったが、学級などで児童に事実関係を伝え、「してはいけないこと」と指導したという。

学校はこの2件以外にいじめ行為は把握していないという。女児の自殺未遂があった7日に初めて市教委に報告したが、家族の意向で公表しなかった。

女児は責任感が強く、活発で、男女問わず友達が多い方だという。学校では年2回、児童に悩みを聞く記名式のアンケートをしているが、女児からいじめの相談はなかった。

記者会見した市教委の松本健吾・学校教育部長は「自ら命を絶とうとした苦しみに寄り添うことができず、心からおわび申し上げる」と述べた。(井口彩)

■いじめ相談電話の連絡先

【全国共通】
◇2189(いじめ相談ダイヤル 0570・0・78310
◇子どもの人権110番（無料） 0120・007・110 (月～金曜の午前8時半～午後5時15分)
◇チャイルドライン（無料） 0120・99・7777 (月～土曜の午後4時～午後9時)
◇関西いじめ電話 06・6309・1121（24時間）
【近畿】
◇大阪 電話教育相談 06・4301・3140 (月～金曜の午前9時～午後7時)
◇兵庫 こうべっ子悩み相談「いじめホットライン」 078・361・7710（24時間）
◇京都 いじめ相談24時間ホットライン 075・351・7834

厳かに 涼やかに

世界遺産の下鴨神社（京都市左京区）で19日、境内の池に足を浸して無病息災を願う「御手洗祭」が始まった。

日が昇れて訪れた参拝者はひんやりとした池の水にひざまでつかり、ろうそくを手にして向こう岸へ。その明かりが水面に揺れる中、手を合わせた。

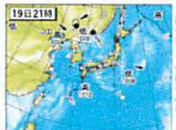
「足つけ神事」とも呼ばれ、江戸時代に広まったとされる。22日の土用の丑の日まで午前5時半～午後10時に開かれる。問い合わせは下鴨神社（075・781・0010）へ。(岡田匠、写真は戸村登) デジタル版に動画

選択と集中を

小黒一正・法政大経済学部准教授（公共経済）の話

自治体地方活性化のための交付で公共事業を進める際には、人口が減った時に必要な施設かどうか「選択と集中」を考えるべきだ。大都市のインフラ再生に重点投資した方が効率的な場合もある。自治体に交付金をやみくもに出すべきではない。無駄な事業を生み出しかねない。国全体の「選択と集中」をどう判断するかが問われる。

天気 明日から



	21日(日)	22日(月)	23日(火)	24日(水)
大阪	0	0	30	30
神戸	0	0	30	30
京都	0	0	30	30
大津	0	0	30	30
奈良	0	0	30	30
和歌山	0	0	30	30
津	0	0	30	30
富山	0	0	40	40
金沢	0	0	40	40
福井	0	0	40	40
岡山	0	0	30	30
広島	0	0	30	30
鳥取	0	0	40	40
松江	0	0	40	40
高松	0	0	30	30
松山	0	0	30	30
徳島	0	0	30	30
高知	0	0	30	30
札幌	0	0	20	20
仙台	0	0	30	30
東京	0	0	30	30
名古屋	0	0	30	30
福岡	10	10	30	30
那覇	10	10	30	30